

平成26年度 教育部 施策展開方針 報告書

1. まちづくり政策(教育部関係分)

政策 06 子育て・教育	政策展開の方向性						
	<p>子育て環境を充実させることにより、安心して子どもを産み育てられ、就業と子育ての両立もできるまちをつくります。教育では、子どもたちが多様で変化の激しい社会を生き抜いていく力を養成することに主眼をおき、個性を尊重しつつ確かな学力の定着に努めます。安全で安心な教育環境の下で地域社会全体が連携し、次代を担う心身ともに健康な子どもたちを育てます。</p>						
	平成26年度の取組状況報告 (前年度の取組内容や成果指標の動向・分析を踏まえて、基本方針の進捗状況を記載)						
	06-02 子どもの教育の充実						
	<p>・確かな学力の定着のため、全中学校で放課後における補充学習を実施し、外国語活動を小学校3・4年生の全校と1・2年生の一部に拡大したほか、電子黒板の配置を小中学校全学級へ拡大し、ICT活用による教育充実を図りました。また、障がいのある子どもに対する環境整備として、特別支援学級を小学校3校、中学校1校に新設(平成27年4月1日)するための準備を実施したほか、肢体不自由児等のために野幌中学校にエレベーターを設置するなど施設のバリアフリー化を図りました。</p> <p>・学校での体力向上の取組を支援するため、大学と連携して体力向上プログラムや出前授業を実施しました。</p> <p>・学校・家庭・地域の連携協力を推進するため、学校支援地域本部事業の取組として、学校支援ボランティアの全市民的な派遣を実施しました。</p> <p>・安全で安心な教育環境を確保し、学校施設・設備の整備充実を図るため、江別第一小学校の改築実施設計や江別太小学校、江別第一中学校の改築工事のほか、屋体の非構造部材の耐震化調査を実施しました。</p> <p>・不登校の児童生徒への支援として、スポットケア事業を週1回から週2回に拡大しました。また、いじめ防止等の対策として「江別市いじめ防止基本方針」を策定しました。その他、様々な悩みや問題を抱える児童生徒の支援策として、小中学校に対しSSW(スクールソーシャルワーカー)等の活用を積極的に働きかけ、相談業務の充実を図りました。</p> <p>・次代を担う青少年の健全育成を推進するため、体験活動等の事業のほか、育成団体等に対する補助金交付や各種会議を通じた連携強化の取組を実施しました。</p> <p>・成果指標のうち、「教育施策に満足している保護者の割合」は上昇した一方、「生きる力が身についた児童・生徒の割合」は概ね横ばいとなりました。個別計画の進捗状況を示す「学校の授業が分かると答えた児童生徒の割合」については、90%前後の高い水準を維持しました。</p>						
	政策の成果指標	単位	(初期値)	H26年度	H27年度	H28年度	目標
	子育て環境が充実していると思う保護者の割合	%	44.6	39.2			↗
	教育施策に満足している保護者の割合	%	78.0	84.1			↗
	「生きる力」が身についた児童・生徒の割合	%	77.6	76.7			↗
	教育部が所管する個別計画または重点事業の進捗状況						
	「学校教育基本計画」 学校の授業が分かると答えた児童生徒の割合	%	88.7	91.0			↗

政策展開の方向性

市民が生涯にわたって、学習・文化活動・スポーツを気軽に行える場を提供し、市民が心身ともに健やかで充実した生活を営めるようにします。また、長い歴史を持つれんが産業や文化・歴史遺産を通じて、市民のふるさと意識の醸成を図ります。

平成26年度の取組状況報告（前年度の取組内容や成果指標の動向・分析を踏まえて、基本方針の進捗状況を記載）

07-01 生涯学習の充実

- ・社会教育施設が市民の交流や学習活動の拠点として活発に利用されるために必要な環境整備として、修繕計画を作成して中央公民館及び大麻公民館のボイラー更新と野幌公民館ホール窓枠の修繕を実施しました。
- ・生涯学習の各活動が、自主的に展開され安定的に運営されるようにするため、社会教育団体への公民館使用料の減免等の支援を実施しました。
- ・市民が社会参画に向けた多様な知識を得る機会を提供するため、市内4大学と連携した生涯学習講座である「えべつ市民カレッジ」を開催しました。また、ホームページ等によりボランティア情報の提供を行いました。
- ・成果指標の「生涯学習を通じて心の豊かさを実感している市民割合」と個別計画の進捗状況を示す「生涯学習の機会が充実していると思う市民割合」は、低下する結果となりました。習いごとや趣味の活動を行う市民を増やすことや、生涯学習の機会について多くの市民に知っていただくことが重要と考えられるため、より積極的な情報提供に努めていきます。

07-02 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造

- ・市民に質の高い文化・芸術を鑑賞する機会や発表の場の提供のほか、活動団体の安定的な運営への支援や文化施設の計画的な修繕として野幌公民館の音響設備の更新等を実施しました。
- ・文化財や歴史遺産を調査・保存し、後の世代に正しく継承していくための展示・収蔵施設の将来展望として、郷土資料館、文化財整理室、旧林木育種場の方向性に係る具体の議論ができるよう、考え方や課題の整理を行いました。
- ・成果指標の「文化・芸術活動に参加している市民割合」は伸び悩んでいることから、習いごとや趣味の活動を行う市民を増やすための方策を検討し、実施する必要があります。
- ・個別計画の進捗状況を示す「文化財や歴史遺産の活用により、個性豊かな文化が育っていると思う市民割合」は、低下しました。文化や歴史に触れる機会について多くの市民に知っていただくことが重要と考えられるため、より積極的な情報提供やPRに努めていきます。

07-03 市民スポーツ活動の充実

- ・災害時の避難所としても重要な、社会体育施設の計画的な改修(耐震化・長寿命化)として、市民体育館の耐震補強・窓枠改修などの施設改修を行ったほか、大麻体育館の耐震診断等を実施し、スポーツ・レクリエーション活動の環境整備に努めました。
- ・スポーツ・レクリエーションについては、学校開放事業など幅広い年齢層に対応する活動機会の提供や、地域スポーツ活性化のための体育協会やスポーツ少年団の活動に対する支援を引き続き実施し、活動団体の活性化促進のための分析・評価に向けては、体育施設管理団体と連携して利用者アンケートを実施し、施設整備や各種スポーツ事業の改善に取り組みました。
- ・社会体育施設の在り方については、その方向性に係る具体の議論ができるよう、考え方や課題の整理を行いました。
- ・成果指標の「週1回以上スポーツ活動に親しむ市民割合」は伸び悩みを見せ、個別計画の進捗状況を示す「スポーツ機会が充足していると思う市民割合」についても減少したため、より多くの市民がスポーツ活動に親しむことができるよう、市民ニーズを的確に把握し、魅力ある事業提供に努める必要があります。

政策の成果指標	単位	(初期値)	H26年度	H27年度	H28年度	目標
生涯学習を通じて心の豊かさを実感している市民割合	%	33.2	28.6			↗
文化・芸術活動に参加している市民割合	%	18.3	16.5			↗
週1回以上スポーツ活動に親しむ市民割合	%	40.2	37.3			↗

教育部が所管する個別計画または重点事業の進捗状況

「社会教育総合計画」 生涯学習の機会が充実していると思う市民割合	%	72.0	59.2			↗
「社会教育総合計画」 文化財や歴史遺産の活用により、個性豊かな文化が育っていると思う市民割合	%	45.1	30.1			↗
「スポーツ推進計画」 スポーツ機会が充足していると思う市民割合	%	76.5	61.3			↗

2. えべつ未来戦略(教育部関係分)

戦 略	■戦略プロジェクト 「関連事業」(担当課)
戦 略 1 ともにつくる協働のまちづくり	■1B 大学が活躍するまちづくり 「えべつ市民カレッジ(四大学連携生涯学習講座)事業」(生涯学習課)
戦 略 2 えべつの将来を創る産業活性化	
戦 略 3 次世代に向けた住みよいえべつづくり	■3A 社会全体で子どもを産み育てるまちづくり 「小中学校学習サポート事業」(学校教育課) 「児童生徒体力向上事業」(学校教育課) 「小学校外国語活動支援事業」(学校教育課)
戦 略 4 えべつの魅力発信シティプロモート	

3. 教育部の資源

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
歳出予算額 (千円)	一般会計 (A)	5,011,515				
	特別会計 (B)	0				
	合計 (A+B)	5,011,515				
正職員人件費 (千円)	人工 (a)	104				
	平均単価 (b)	7,853				
	人件費 (a×b)	816,712				
総 額		5,828,227				